

研究分野のキーワード：武家政権、愛知県の中世史

研究紹介

私の専攻分野を一言でいうと「日本中世史」となります。日本史を古代・中世・近世・近代・現代と分けていくと、中世はだいたい11世紀の頃から16世紀くらいまで、とするのが現在の多数意見でしょう（ただ、この分け方には、人によって多少の相違があります）。皆さんが教科書で勉強する枠組に沿っていうと、平安時代の後期から戦国時代のあたりまで、ということです。

その中で、私が自分の研究対象としているのは、第一に、12世紀後半、平氏政権や鎌倉幕府という武家政権が成立してくる時代の政治や軍事の動きです。有力な貴族や武士たちが、どんな問題にどう対処しようとしていたのか。その結果が次にどのような問題につながっていくのか。彼らの立場や力関係はどのようなものであったのか。そんな事柄を、できるだけ具体的に解明していくことが課題です。第二のテーマは、愛知県域の中世史、特に政治や軍事の動向です。今、自分がいるこの地域で、かつて中世といわれる時代にどのような人々の営みが展開されていたのか。こちらは鎌倉時代から戦国時代までの数百年間を広く対象にして、地域や時代の特色を読み取れるであろう個人や地域、事件などを取りあげ、やはりできるだけ具体的にその様子を説明することを課題としています。

では、そうした歴史の研究とは、実際のところ、どんな作業なのでしょう。皆さんは現在、まず歴史の大きな流れを理解するための勉強をしていますよね。細かい年代や事項を覚えるのも、その流れを間違いなく捉えていくための土台となるからです。一方、歴史の専門的な研究というのは、そうした大きな流れを念頭に置きつつも、個別の場面でその流れを生み出す（加速する、停滞させる、方向を変える、等々）どのような人々の活動があったのかを描き出す作業です。そこでは、だいたいこんな具合だったのかな……というのではダメで、より具体的で厳密な説明が求められます。その説明を説得力あるものにする（単なる思いこみではないことを分かってもらう）ためには、昔の人々が残してくれた史料を、証拠として提示しなければなりません。ちょうど裁判で、裁判員に納得してもらえるような証拠と論理を示していく作業と似ているかもしれませんね。そこで、歴史の研究では、史料を探し出し、きちんと読み込むことが絶対に必要になります。他人様が説明してくれたことを、いくらたくさん知っていても、研究にはなりません。自分が直接に何かの史料から取り出した情報に基づいて、独自の説明ができなくては、研究として認められないのです。そのため、大学からの歴史研究では、まず昔の言葉や文章で書かれた史料を「解読」する技術を身に付けることが出発点になります。私も、昔の人々が残した古文書や日記、さまざまな編纂物などと取り組みながら、遠い過去から語りかけてくれる人々の足跡を、少しでも具体的に描き出したいと念じています。